

## 高みを目指して

### ソフトテニス部

私たち男子ソフトテニス部は、2年生9人、1年生2人の計11人で活動しています。1年生が2人しかいないため、準備や後片付けを全員で行っているように、普段の学校生活からもかなり協力的なチームです。

9月に行われた中央支部新人大会では、5年ぶりに学校対抗戦優勝という成績を収めることができましたが、3年前の先輩たちが残した全県ベスト4を超える成績も残せるようにしたいです。東北大会、インターハイに出場できるのは全県の上位2チームだけなのですが、現在秋田県では上位2チームの力が突出していて、3位以下のチームとの力の差がかなり開いている状況です。3位以下の中にも、強豪のチームはたくさんあり、私たちはなかなか勝ち進むことができていません。

そこで、私たちが工夫している点が二つあります。一つ目は、部で定期購読している『ソフトテニスマガジン』の活用です。私たちは周りの強豪校に比べてテニスの知識が少ないので、練習中にプレールの分からない点を本で確認し修正しています。二つ目は、課題の明確化です。私たちは、練習や試合の終わりに部員全員でその日の活動を反省し、次の練習や試合に生かすようにしています。

日頃、よりよい環境で練習できるようにと、外部コートでの予約や送迎など、様々な面で支援してくれている保護者の方々の期待に応えるためにも、目標としている成績を残せるようにしたいです。

〔ソフトテニス部主将 2E 菅原 哲〕



中央支部新人団体戦で優勝  
県立中央公園テニスコート(秋田市・9/13)

## 学校新聞で秋高に「風」を

### 新聞委員会

秋田高校新聞委員会は現在2年生4人、1年生2人の計6人と少ない人数ではありますが、少数精鋭を自称しながら日々全力で活動しています。年4回の発行に向けて、インタビュウに押しかけたり、レイアウトで採めたり、時には細かい文章表現で論争したりと白熱した活動を展開しています。

そんな私たちの目標は学校新聞コンクールで最優秀賞をとり、全国大会へ行くことです。先日このコンクールに、9月25日に発行した秋田高新聞第282号を応募しました。先輩方が引退してから初めての制作ということで、悪戦苦闘する場面も多々ありましたが、なんとか乗り越えて完成にこぎつけました。

中でも苦労したのは2、3面の特集記事です。全校生徒に関心を持ってもらえるように、校歌の一節にある「わが生わが世の天職いかに」から「天職とは何か」をテーマに特集を組みました。2年生の生徒とその保護者の方々にアンケートを実施し、親子二世代の対比を軸に据え、さらに校長先生と教育実習生のインタビューを掲載し、幅広い世代の見解を集めました。また、分析を踏まえ、論説をまとめました。今持てる力を全て使った渾身の記事です。

「秋高にさまざまな視点からの風を吹き込み、全校生徒に考えをもちたいこと」。これが私たちの編集方針です。読ませる記事を作るという姿勢を忘れず、これからも努力していきます。

〔新聞委員長 2A 佐々木 美衣〕



秋田高新聞282号 2、3面の特集記事

## 事務局通信

通称同窓会館、校史資料館・羽城館には展示室と3つの会議室があり、学校・生徒・年次等の利用に供しています。展示室は昨年度から申し込みによる展示を行っており、今年度は在校生2件、年次・個人が各1件の予定です。

現在は12月25日までの予定で渡辺芳勝さん(昭和35卒)の油絵展開催中です。学校方面にお出での際は、ぜひお立ち寄りください。会議室、展示室の利用については、事務局にご連絡ください。

## 編集後記

2020年東京五輪まであと5年を切った。浅草寺録事清水谷さんも帝国ホテルの営業マン佐々木さんも、遠来の客を迎えるキーワードに挙げたのは「おもてなしの心」。笑顔が東京五輪成功の扉を開く▼人口減少に歯止めがかからない郷土秋田の創生に向けて同窓会は何ができるのか。豊富な人材の経験と知見の出番である。(半可通)